

※先生方への回覧と地域学校協働活動推進員さんへの手渡しをお願いします。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第51号
令和3年11月24日

11月は「霜月」。「初霜」「木枯らし」「小春日和」の頃。「紅葉」の季節を迎えています。7日(日)の「立冬」も疾うに過ぎ、一雨ごとに冷え込みが増しているようです。秋が深まり、各地から紅葉のニュースが届きます。だんだん冬が近づいてきます。

ふた葉三葉 ちりて日くるる 紅葉かな (与謝蕪村)

「紅葉」「黄葉」のどちらも「もみじ」と読みます。さて、なぜ「もみじ」といわれるのでしょうか。

霜が降りる日もあり、寒暖の差が激しいこの時期、露や時雨の冷たさに、もみ出されるように色付くことから「もみづ」と言い、名詞化して「もみち」に。平安時代に「もみち」と濁点が付き、今の「もみじ」になったそうです。紅葉の季節、たっぴりと味わいたいですね。



今回は「地域学校協働活動地域説明会」を振り返ります。

本来8月に予定していたのですが、コロナ禍のため延期していた地域学校協働活動地域説明会(中学校区毎に実施)を10月に開催することができました。4日(月)、13日(水)、14日(木)の3日間で地域の方、推進員さん、学校の先生方など延べ140名の方々が出席してくださいました。ご多用の中、誠に有り難く存じます。

先月、市民の方から「学校で何かやっているようだけれども、地域学校協働活動っていったい何なの?」とのお尋ねを受けました。No.42号(4/26)に書きましたように、今年度の大きな課題の1つが「**本事業を知っていたらこう!そして、力を貸していただこう!**」です。そのためにと考え推進員さん方には地域説明会では実践発表をお願いしました。活動の最前線で奮闘されている推進員さん方の熱い想いは出席された方々に響き、地域に「波紋」のように広がっていくものと期待しております。有難うございました。感謝申し上げます。

尚一層、学校、地域、家庭、子供、行政の5者がスクラムを組み「**学校を核とした地域づくり**」を推進していきましょう。「**地域の創生」「子供の成長**」のために「**社会総がかりの教育**」の実現をめざしましょう。皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**「こんなことやったよ!」「こんなことやりたいな!」
地域説明会で話題となったことです。参考にしてください!!**

令和3年度地域の人づくり講座第2回資料(県統括アドバイザー:山平敬夫氏作成)より

「地域説明会で話題になったこと」 10/4(月)玉南中校区・有明中校区

- 学校の連携・協働に関する考えをもっとPRする必要がある。学校を支援する人に十分伝わっていない。
- 子供の遊びを推進したい。ビー玉遊び、凧揚げ等。地域で遊ぶことで触れ合いが生まれる。
- 活動の評価が必要。子供がサポートすることでどう変わったのか。
- 地域において、生徒にしてほしいことをどんどん教えてほしい。
- まだまだ参加できる方がいる。掘り起こしが必要。
- 子供たちから愛称で呼ばれるようになった。とてもうれしい。
- 学校が花いっぱいになった。
- 公民館講座とクラブ活動をつなげることができた。
- 回覧の仕組みがなかったが、何とかして学校だよりを全戸配布した。
- 今まで関わっていなかったボランティアグループが学校支援の活動を始めた。
- 地域から学校への要望も挙げてほしい。



裏面あり

「地域説明会で話題になったこと②」 10/13(水)天水中校区・玉名中校区

- 年3回発行の支館だよりに学校の様子を掲載していただいている。
- 高齢者の方が昔取った杵柄を發揮して、虫取りで子供のヒーローになった。
- プール監視のサポートが70回ほどできた。
- 地区の神楽が児童減少で危機に瀕している。学校と連携できないか協議している。
- パソコン教室に企業OB、教職員OBを活用している。
- 学習に対して困り感のある子供への支援をお願いしたい。
- ありがとう集会で地域の支援に対してお礼をしている。
- 地域の寄り合いで、子供も参加して地域のことを話し合った。
- コロナ禍の中で新しいことは難しい。既存の活動に工夫をしていく。
- 中学生と高齢者の交流をしたい。
- 学校からの依頼を優先したい。
- キャリア教育を通して学校と行政がつながった。
- ボランティアだけの草取り等に子供も参加するようにしたい。
- 保護者の協力をお願いする取り組みはよい。
- 中学生に地域の祭りや支館の美化作業へも参加してほしい。
- 空地の活用で交流できるようなことができないか。



「地域説明会で話題になったこと③」 10/14(木)玉陵中校区・岱明中校区

- ボランティア募集をまず保護者にとり、できなかったものを地域に呼びかけた。
- 中学生が小学生に寄せ植えの指導をする機会を作った。
- 朝の挨拶運動時に管理職と情報交換を行っている。
- 昔の偉人がたくさんいる。史跡もたくさんある。活用したい。
- ソーラン節や応援団等子供たちが身に着けている。活躍の場が欲しい。
- 学校へ地域の人が出向くきっかけが必要。何か参加できる行事が必要。
- 地域への情報発信が必要である。
- 子供たちが地域で活躍する場を作る必要がある。
- 学校でやることがわからん。そのためには学校へ行かんといかん。
- 地域の方が一緒に学校で勉強できたらうれしい。
- ボランティアが限られている。ボランティアの方を探すのが一番の仕事。
- OPTCAが広がっている。PTAは存続に関わるようなことが続いている。地域との棲み分けにより負担が減るので助かる。
- 地域住民が地域の学習会や行事に子供から大人まで巻き込んでいくことがとても大切ではないか。
- これまでの活動を充実していくことが大事。
- 地域には、地域の歴史、伝説、史跡等がある。これらを大事にできないか。
- 簡単にできることを継続していくことが大事である。
- 広報が大事。() 小学校区だよりがあるといいな。
- いろいろな地域の行事も中止や延期になっているが、別の方法で、できることからやったらどうか。



= 編集後記 =

前号のNo.50で雁の渡りを話題にしました。その続きです。(皆さん、すでにご存知かと思いますが…) 雁などが空を飛ぶとき「V字に並んで飛ぶ」のだそうです。大型の鳥が飛ぶと羽の斜め後方に空気の渦が発生し、揚力となり飛びやすくなる。だから隣の鳥は、斜め後ろを飛べば楽に飛べる。雁は先頭を交代しながら列を作って、長い距離を楽に飛ぶ工夫をしているのだそうです。

もし渡りの途中に群れの中の一羽が病気やケガで飛べなくなると、体力のある二羽の雁がその雁を助けるために、付き添って地上に降り、飛べなくなった雁が回復するか死ぬまで付き添うのだそうです。その後、無事に回復すれば三羽で目的地に向かうか、新しい群れに加わり元のグループに追いついていくそうです。

雁にとっては本能、習性なのでしょうけれど、知性や心を感じます・・・。